

令和元年度第1回 練馬区国際交流・多文化共生事業推進連絡会 要点記録

- 1 開催日時 令和元年11月8日(金) 15時～16時
- 2 場所 練馬区役所本庁舎19階1903会議室
- 3 参加者 ボランティア日本語教室等40名、地域振興課長、国際・都市交流課長、国際・都市交流担当係長、企画課企画担当係長および係員1名
- 4 事務局 地域振興課事業推進係長および係員2名
- 5 <配布資料>
 - 資料1 国際交流・多文化共生事業推進連絡会 資料(企画課)
 - 資料2 世界都市農業サミット in 練馬 パンフレット
- 6 内容

※レジュメに沿って以下のとおり進行

(1)開会あいさつ

(国際都市交流課長)挨拶

友好都市として、オーストラリアのイプスウィッチ市、中国の北京市海淀区と提携を結んでいる。国内では長野県上田市と提携しており、当課はこれら友好都市との交流を担当している。毎年、この会にも出席させていただき、区内の状況などを確認させていただきながら事業を進めている。本日も様々なご意見をいただければ有難い。

(地域振興課長)挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。全国的には人口減少とされているが、練馬区は幸いにも人口が増え続けている。今後も増えていくと思われるなか、外国の方の割合が多くなっていく見込みである。本日はそういった点も含めて、現況をご報告させていただく。

外国人の方々が日本人区民と同じように生活していただけるように、少しでも早く地域に溶け込んでいただけるように、様々な事業を進めていきたいと考えている。そのためにも、皆さまが普段、外国の方々と触れ合う中で感じていること、今後についてのお考えなどお聞きし、有意義な時間としたい。よろしくお願ひ申し上げます。

※この後の司会進行について、希望、推薦ともなかったため、事務局で行うこととした。

(2)外国人住民の増加等を踏まえた今後の対応にかかる意見交換 ※資料1参照

(事務局)

本日は、限られた時間を有意義なものとしていきたい。過去の連絡会では、各団体に順番にご発言いただいていたが、今回、発言の際は都度、挙手いただき、団体名とお名前を仰っていただいてからご発言願いたい。

※企画課企画担当係長より、資料1の内容について、説明。

(事務局)

この後は時間の許す限り、資料についてのお考えや、現場で感じていること、今後の区の方向性など、どんな内容でも構わないので、多くの方々からご意見を賜りたい。

(参加団体)

「新たな在留資格と日本語教室への影響」というテーマで日本語ボランティア実践研修があった。ワークショップの中では、日本語教室の学習者が賃金未払いだったり、中国人夫婦の夫が暴力をふるっていて、妻が離婚をしたいといったケースについて、どうしたら良いか考えるというものがあった。

今後、様々な問題が出てきた場合、区はどう対応するのか。

(参加団体)

基本的には日本人区民と同様、外国人区民からご相談を受けたときも、対応できる行政機関の窓口へ繋ぐ。

例えば、夫の暴力には男女共同参画課、賃金未払いには専門部署や労基署をご案内する。また、言葉が通じない方には、地域振興課の外国語相談窓口や文化交流ひろばの情報コーナーで対応している。区役所内の窓口でも、外国語対応ができない場合には、当課の相談員がサポートする。言語の壁を取り払い、日本人区民と同様に対応するのが、基本的な考え方である。

(参加団体)

寄り添う姿勢は必要。何かあったら地域振興課を案内すればよいか。

(地域振興課長)

こちらを案内してほしい。

(参加団体)

区のHPには、外国語による区役所までの地図などの案内がなく、区役所で手続きをした後に外国語で地図が記載された、くらしのガイドを渡される状況である。改善いただきたい。

外国人に関わる問題は多岐に渡り細分化してきている。資料に外国人の出身地はアジアが9割とあるが、これだけでは意味がない。漢字圏か否か、会話のための日本語が必要なのか、学習のため日本語が必要なのか、ビザの内容や国のことも分からない資料では、何をすればよいのか分からない。データも5年分は必要。的を絞って分科会などで話すのも良いと思う。

ビザに関してもっと細かい情報が出せれば、各日本語教室で抱えている課題なども分かるのではないか。

個人情報の問題もあるとは思いますが、細かい情報を出せれば限られた時間での的を絞った議論をし、優先順位をつけることもできる。関係者の協力も得られる。

(企画課企画担当係長)

今後、提供できる情報は検討していく。

(参加団体)

ビザに関する対応で困っている。様々なケースがあり、自分でも調べるが難しく、ビザについて学ぶ講座も少ない。困ったときは地域振興課に相談してもよいか。

(事務局)

こちらにご連絡いただいて良いが、職員も専門知識を持っているわけではないので、出入国在留管理庁などをご案内する形になる。

(参加団体)

今後、ボランティア教室でもビザの相談を受けることが増えてくると思うので、ビザについての講座は必要。ビザについて、練馬区に相談できる窓口はあるか。

(事務局)

現状、区にそういった窓口はない。外国語相談窓口で相談を受けるケースが多く、関係機関に問い合わせ個別に対応している。対応に悩まれるようなら、こちらにご連絡いただければと思う。

(参加団体)

広報誌や相談窓口は、練馬区も東京都も日英中韓しかない。最近、ネパールの方が増えているので、ネパール語の通訳を導入してはどうか。ベトナム人も増えている。

(事務局)

区の外国語相談窓口では、3年前にタガログ語の通訳を導入した。ネパールやベトナムの方が増えているのも承知している。今後も状況を踏まえ必要な措置を講じていく。

(参加団体)

4か国語の相談員がいるということか。

(事務局)

曜日によって変わるが、英、中、韓、タガログの相談員がいる。その他の言語については、都に繋げることもできるし、区の通訳ボランティアの制度を利用していただければ、もっと多くの言語にも対応できる。

(参加団体)

資料で区に入ってきている人の情報は分かったが、入ったあとの定着率が知りたい。こども日本語教室で関わっている小中学生の子どもたちの将来がともも気になり、どういうスタンスで関わっていけばよいか考えてしまう。定着率とともに、子どもたちの進学や、就職の状況を知りたい。

(地域振興課長)

庁内関係部署と調整するが、そういった内容は分からないかもしれない。

(参加団体)

滞在年数、滞在理由、職業、家族構成なども知りたい。

日本に何十年もいて、定年間近になってから日本語を勉強しようという人がいるが、もう遅い。若い人でも、働くことだけに一生懸命で、言葉や文化を学ぼうとしない人がいて将来が心配だ。区は、どのようなものを課題と認識しているのか。

(企画課企画担当係長)

庁内の各部署からの情報によると、まずは言語の問題があると区で認識している。

(参加団体)

言語ができると何が解決するのか。

(企画課企画担当係長)

生活面で外国の方が住みやすくなると考えている。例えば、年金や健康保険などの制度面では、英中韓で案内物などを作成するようになってきたが、それ以外の言語の対応はできていないなど、まだ足りない面もある。

(参加団体)

練馬区のホームページで直近の総人口や外国人人口などを確認したが、他の特別区の総人口に対する外国人の割合が載っていない。また、資料に記載のある年平均増加率では、近隣の板橋区や中野区の増加率が高いがなぜか。

(企画課企画担当係長)

今後、資料を作成する際は、外国人の占める割合などはわかるようにする。周辺区の増加率が高い理由などについて、今回提示できるものはないが、分析できれば別の機会などにお示しする。

(参加団体)

現在の教室は、毎週決まった曜日や時間に集まって学習しており、外国人学習者にとってもボランティアにとっても、負担が大きい。海外では、図書館などで利用者が希望日時を伝えて、その時に活動できるボランティアが対応するという方法を取っているところもある。このように様々な方法があっても良いのではないか。

(参加団体)

希望するようなやり方で、新しい教室を立ち上げてはどうか。

(参加団体)

教室を立ち上げてしまうと、活動できるタイミングではなく、毎週決まった日時に来なければいけないのではないか。海外では、学習者、ボランティア双方の都合の管理などは行政が行っている。

(参加団体)

区にそういった対応をお願いするのは難しいと思う。新しいスタイルについての考えは素晴らしいと思うが、実行は賛同する仲間を集めて自分たちでしかないと思う。

(参加団体)

区には、朗読ボランティアの制度がある。図書館に対面朗読室を設置し、視覚障害者の希望日時に図書館側がボランティア協会と連絡を取って、朗読ボランティアを派遣している。日本語教室でも同じように出来るのではないか。

(参加団体)

朗読ボランティアについては、ニーズがあってもボランティアが見つからない場合もある。豊島区では、日本語教室でそのようなやり方をしているようだが、学習者が来ないこともあるそうだ。新宿区でも同様のやり方をしているとのこと。目黒区では、通常日本語教室とサロンの両方を実施しているらしい。

(参加団体)

日本語教室では、学習者に教えるだけでなく、自分が知らないことを知れたり、勉強になる。ボランティアは確かに大変だが、自分が得るものも大きい。色々な意見があり、多様なボランティアの形があるのではないかと思う。

(参加団体)

毎週決まった日時での活動が負担となり、2、3か月で辞めてしまった方がいた。また、月に1、2回しか来られないことが迷惑ではないかと悩んでいる学習者もいる。

(参加団体)

月に1回くらいしか活動できないという方は、区の「※日本語講師ボランティア制度」を活用してはどうか。

※日本語教育についての知識や経験のある方に「日本語講師ボランティア」として登録していただき、ボランティア日本語教室や個人などから、講師の紹介を依頼された場合に、区が仲介する制度。

(参加団体)

日本語教室ボランティア養成講座の後に、多文化共生に関する知識や教授法などについてのフォローアップ研修を実施してほしい。

(事務局)

ボランティア教室で活動されている方を主な対象とした実践研修は、毎年実施している。今回は在留資格について、その前は教授法についての内容だった。フォローアップ研修の必要性は区も認識しており、次年度はさらに充実する予定である。来年度の事業については、今年度末に予定している2回目の連絡会

でお知らせする予定である。

(参加団体)

病院の問診票などは、ほとんどが日本語で書かれており、内容も難しい。多言語化について、区から働きかけてほしい。

また、ボランティア教室では高校受験を控えている子の対応は難しい。英語で受験できるところもあるようだが、中国語など他の言語でも受験できるように働きかける必要がある。

それぞれの国の母語での区の情報発信や、メディアの活用もお願いしたい。

(参加団体)

中国人の先生が立ち上げた「多文化共生スクール」があり、費用は3万円ほどかかるが、外国人の高校受験をサポートしてくれる。

外国人を受け入れている都立高校のことなど、参考になる情報はインターネットで検索できる。

(参加団体)

田柄高校は外国人枠があり、それを利用して受験する子が多いため、倍率が高い。逆に定員割れをする学校もあるので、そういったところは狙い目である。入学できても後々授業が難しくなる。課題を提出すれば単位を取ることはできるが、国語力が付いていないと結局苦勞する。

(参加団体)

ビザや子どもの問題などは区のみでは解決しない。専門機関などの説明を分かりやすくして伝えることは区でもできると思う。

この連絡会は共生をテーマとしていると思うが、ボランティアの立場からの話しかされていない。

外国人へのサポートを考える際に、その言語を使用する外国人をボランティアとして育成して、こういった場で発言してもらうようなシステムを考えなければいけない。

海外では、図書館が言語学習の拠点である。ボランティア教室ではある程度決まった内容しか教われない。日常生活に必要なもの、興味のあるものは人それぞれ違って、知りたい日本語も違う。また、外国人でもボランティアをしたい人はいると思う。日本人ボランティアも交えて図書館などで、学習希望者とマッチングができないかと思う。外国人も一地域住民として、活躍の場があったらよいと思う。

(参加団体)

自動翻訳の誤りについて、学習者に指摘されることも多い。外国人に翻訳ボランティアとして登録をしてもらい、自動翻訳などの再チェックをお願いするシステムを作ってもよいのではないか。

(参加団体)

区が外国人のためにこのように頑張っていることを知らなかった。外国人に対して区が行っていることや、困ったときはどこに連絡すればよいかなど、もっと宣伝してほしい。

(参加団体)

中国出身の支援員として、光が丘の文化交流ひろばで勤務している。英語、中国語、韓国語の支援員がいるので、困りごとなどあったら是非お越しいただきたい。Facebookでも情報発信しているので、こちらもご覧いただきたい。

(地域振興課長)

外国の方の力もお借りして、一緒に事業を進めていきたい。参加について、入口が分かりづらいというご意見についても、全庁的に考えていきたい。

(事務局)

資料として「世界都市農業サミット in 練馬」のパンフレットを付けている。11月29日から12月1日の期間で実施し、区で初めての国際会議を開催する。12月1日の「ねりまワールドフェスティバル」は、多文化共生に向けて、様々な文化や国籍の違いを理解し合いながら、地域社会の構成員として共に生きていくためのきっかけ作りとして開催する。是非、お越しいただきたい。

以上をもって、練馬区国際交流・多文化事業推進連絡会を終了する。